

栗原地域だより

第6号

平成25年3月1日発行

目次

- 仙台・宮城デスティネーションキャンペーンがいよいよ始まります！ p1
- 花山元気プロジェクトが「そば祭り」を開催します！ p2
- 鈴木養蜂園 鈴木恭太郎さんの歩みを紹介します p2
- 農地・水保全管理支払交付金を利用した取り組みを紹介します p3
- ガンカモ類生息状況調査の結果をお知らせします p4
- 第1回「栗原地域農業経営トップセミナー」を開催しました p4
- 栗原イベント情報(3月～4月) p5
- 栗原市内の農林産物の放射性セシウム濃度を検査しています p6

北郷早坂の種まき桜(鶯沢)



仙台・宮城デスティネーションキャンペーンがいよいよ始まります！

～ 平成25年4月1日から6月30日まで～

地方振興部

仙台・宮城デスティネーションキャンペーン(以下DC^{※1})に向け、観光推進協議会栗原支部^{※2}では3回のおもてなし研修会を通して、栗原市を訪れたお客様に気持ちよく過ごしていただくための「心得」について学んできました。市内で観光に携わる方々は、「笑顔咲くたび伊達な旅」のロゴが入ったピンクの缶バッジを胸に、お客様を笑顔でお迎えする準備が整っています。



缶バッジ

栗原市の玄関口のひとつであるくりこま高原駅では、「笑顔咲くたび伊達な旅」のピンクののぼりがはためいて、お客様を歓迎する雰囲気であふれています。また、駅構内の観光物産協会前では、細倉マインパークのマスコットキャラクター「マイン坊や」もお出迎えしています。



笑顔でお迎えするマイン坊や

栗原市ではDC期間中、くりこま高原駅と栗駒山いわかがみ平を結ぶ「栗原山麓まるかじりバス」の運行や、例年より2ヶ月早い4月からの「くりでん乗車会」の実施など、様々な企画を提供していきます。

県内各地でも、数多くのイベントが開催されます。たくさんのイベントに参加し、このDCを楽しみましょう。

※1 DC(デスティネーションキャンペーン)

地方自治体・地元観光業者とJR グループとが連携して行う、観光キャンペーン。宮城県では、平成25年4月から6月に開催。

※2 観光推進協議会栗原支部

様々な観光キャンペーン事業を推進するため、栗原市田園観光課と当事務所で構成しています。

■お問い合わせ 地方振興部商工・振興班 Tel:0228-22-2195

花山元気プロジェクトが「そば祭り」を開催します！

～花山地区の愛称が「秘湯花山そばの里」に決定！～

地方振興部

「花山元気プロジェクト」(代表：佐藤倫治花山観光物産協会会長)では、そばや温泉による地域おこしに取り組み、栗原市を訪れる方に楽しんでもらえるイベントを企画しています。

4月6日(土)、7日(日)に開催する「手打ちそば祭り in 花山」(場所：道の駅^{ろ-たり-}路田里はなやま 自然薯の館)では、挽きたて、打ちたて、ゆでたての三たてそばの提供とともに、地元名人による「そば打ち講習会」や「そばカフェ」も実施し、花山のそばづくしの2日間となります。地域愛称の「秘湯花山そばの里」のネーミング披露会も行います。



昨年11月の新そば祭りの様子

また、温湯山荘では、4月10日(水)、5月8日(水)の2日間、そばと地酒、温泉を楽しんでいただく企画として「手打ちそばと温泉三昧」プランを行います。花山のそば職人が目の前で打ったそばや、岩魚などの地元の料理を地酒とともに食するという楽しみな内容です。

さらに、仙台駅発着の「伊達なバス旅」では、4月12日(金)・16日(火)に「そば春満喫プラン」、5月5日(日)に鉄砲祭りを間近で見られるプランを実施予定です。今後も花山の取り組みから目が離せません。

■お問い合わせ 地方振興部商工・振興班 Tel：0228-22-2195

鈴木養蜂園 鈴木恭太郎さんの歩みを紹介します

～“くりこま高原本物の味”を伝える蜂蜜～

畜産振興部

栗原市志波姫にある鈴木養蜂園の鈴木恭太郎さん(宮城養蜂協会会長)に、養蜂や蜂蜜についてお話を伺いました。

鈴木養蜂園の蜂蜜は、栗駒山に自生するトチの木の花の蜜を中心とした純粋な蜂蜜で、濃厚な味わいが大変好評です。鈴木さんは昭和17年に養蜂業を始めましたが、昭和31年にはふそ病(ミツバチの伝染病)の発生で巣箱全ての焼却を余儀なくされ、また、昭和42年にはダニによる被害を受けました。しかし、その都度ミツバチへの愛情を持って対応され、70年近く養蜂業を経営した現在では、御息の恭一さんとともに年間約6トンもの蜂蜜を出荷しています。



鈴木養蜂園の鈴木恭太郎さん

蜂蜜の糖分のほとんどは短時間で体内に吸収されるブドウ糖と果糖で、手早くエネルギーを得ることができます。また、ビタミン、ミネラル、アミノ酸、有機酸、酵素なども微量ながら含まれており、健康に良い食品です。鈴木さんが81歳という御高齢ながら現役で活躍されているのは、蜂蜜のおかげなのかもしれません。

鈴木さんの蜂蜜は、市内観光物産店や県栗原合同庁舎の売店などで販売中です。皆さまもぜひ、栗駒山麓の大自然が育んだ蜂蜜をご賞味ください。



鈴木養蜂園の蜂蜜

■お問い合わせ 畜産振興部畜産振興班 Tel: 0228-22-2487

農地・水保全管理支払交付金を利用した取り組みを紹介します

～地域の財産は地域で守ろう！～

農業農村整備部

農地・水保全管理支払交付金は、農地・農業用施設等の保全や地域環境の保全・向上、地域コミュニティの活性化などのため、農家が非農家を巻き込んで活動する組織を支援するものです。

栗原市内では、この交付金のうち「共同活動支援交付金^{※1}」と、「復旧活動支援交付金^{※2}」の二つが活用されています。

現在、この交付金を利用して全国2万組織(約143万ヘクタール)が活動に取り組み、栗原市内では県内2番目の活動規模である107組織(6,681ヘクタール)が集落の花壇の整備や、壊れた水路の補修などを行っています。

当事務所と栗原市では、今後もこうした交付金を通して、地域の方々の手で地域を守る活動を支援していきます。

※1 共同活動支援交付金

農地・水路等の日常管理をする活動組織への交付金

※2 復旧活動支援交付金

被災地域における水路等の復旧や水路等施設の長寿命化に取り組む活動組織への交付金。共同活動支援交付金と併せて交付される。



集落の花壇を美しく整備



地域活動で、水路の補修作業

■お問い合わせ 農業農村整備部管理調整班 Tel: 0228-22-2398

ガンカモ類生息状況調査の結果をお知らせします

林業振興部

栗原市では、秋から冬にかけて多くの渡り鳥の姿が見られます。特に、日本に渡って来る準絶滅危惧種である「マガン」は、約 80 パーセントが伊豆沼・内沼をはじめとする県北部の湖沼や河川で冬を越しています。県では、ガンカモ類の生息状況を毎年 3 回(11 月、1 月、3 月。1 月は全国調査を兼ねる) 県内全域で調査し、ガンカモ類の保護に役立てています。

飛来最盛期となる 1 月の調査結果は次のとおりでした。(3 回目の調査は 3 月 7 日(木)の予定です。)

区分		飛来数	昨年同期比
ガン類	県内全体	150,079 羽	15,795 羽減
	栗原市内	26,259 羽	679 羽増
ハクチョウ類	県内全体	14,213 羽	956 羽増
	栗原市内	2,718 羽	294 羽増
カモ類	県内全体	51,638 羽	4,766 羽増
	栗原市内	3,024 羽	12 羽減
計	県内全体	215,930 羽	10,073 羽減
	栗原市内	32,001 羽	961 羽増



伊豆沼のガンの飛び立ち

※調査日：平成 25 年 1 月 10 日(木)

今回の調査では、県内全体の飛来数が昨年度の調査と比べて減少していますが、調査場所周辺の中小沼地や水田などに分散したためカウントされていないものと考えられます。事実、昨年 11 月に行った今年度第 1 回目の調査では、県内全体で過去最高の飛来数(233,835 羽)を記録しており、また、栗原市内だけを見ると順調に増えています。

ガンカモ類の生息羽数が増えることは、自然環境が豊かであることの証です。渡り鳥が越冬できる環境を守るため、皆さまの御協力をお願いします。

■お問い合わせ 林業振興部森林管理班 Tel:0228-22-2133

第 1 回「栗原地域農業経営トップセミナー」を開催しました ～栗原農業の未来を考える～

農業振興部

2月6日(水)、第 1 回「栗原地域農業経営トップセミナー」(主催：農業改良普及センター、栗原市農業経営・生産対策推進会議、JA 栗っこ)を栗原市志波姫のエポカ 21 において開催し、約 120 名の農業者等が参加しました。このセミナーは、地域農業の担い手に地域の先進的な農業経営者の取り組み事例を伝え、自らの役割・進むべき道を考えていただくことを目的に開催したものです。

栗原地域だより【4】

始めに、伊藤房雄教授(東北大学大学院農学研究科)から、「栗原農業を担う農業経営者の発展と進むべき道」と題して、これからの農業経営と地域農業の展開等について御講演をいただきました。

次に、市内先進経営体の事例・意見発表では、「我が社・我が家の経営のこれまで・そして・これから」と題して、3つの農業法人((有)耕佑 山村喜久夫氏、(株)愛宕産土農場 佐藤均氏、(農)三田鳥宮農組合 柴山均氏)と、2つの個別経営体※(志波姫 白鳥一彦氏、金成 田中学氏)から地域に根ざした創意あふれる取り組みの発表がありました。

最後に、伊藤教授がコーディネーター、5名の事例発表者がパネラーとなり、「栗原農業を担う農業経営者の発展と進むべき道」をテーマにパネルディスカッションを行い、参加者からは熱気あふれる意見・質問が寄せられました。

当事務所では、農業者の技術・経営支援に向けて、平成25年度以降に「くりはら MMN 塾(もっともうかる農業塾)」と題して様々なコースを設けた研修会を開催予定です。皆さまのご参加をお待ちしています。

※個別経営体 個人または一世帯によって農業を営む経営体。

■お問い合わせ 農業振興部先進技術班 Tel: 0228-22-9437



伊藤教授の講演



事例発表者によるパネルディスカッション

栗原イベント情報(3月~4月)

~春は目前! さあ、出かけよう~

地方振興部

日にち	イベント名	地域
2/2~3/31	みちのく風土館ひな祭り	栗駒
2/8~3/10	くりはら博覧会“らいん”2013コトハジメ	全域
2/22~3/3	第14回くりこま商家のひな祭り	栗駒
3/2~4	第32回梅盆栽祭り	鶯沢
3/2~10	第6回栗原市写真展	築館
3/10	石尊神社火伏せ祭	若柳
3/14~3/15	栗原“もってけ”市	仙台
3/20~3/21	築館互市	築館
3/24	ゴールドハンティング(砂金採り)大会	鶯沢
3/29~3/30	高清水互市	高清水

日にち	イベント名	地域
4/6~4/7	手打ちそば祭り in 花山	花山
4/7	小迫祭り(おばさままつり)	金成
4/14	くりでん乗車会	若柳
4/21~10/20	「愛思考」木彫刻作家 伊藤光治郎展	一迫
4/27	第27回栗原市せみね桜まつり	瀬峰
4/29	第59回政岡まつり	一迫

■お問い合わせ

地方振興部商工・振興班 Tel: 0228-22-2195



栗原市内の農林産物の放射性セシウム濃度を検査しています

(平成 24 年 12 月～平成 25 年 2 月検査結果)

農業振興部

平成 24 年 12 月 22 日から平成 25 年 2 月 6 日までの間、農産物 31 点の放射性セシウム濃度を検査しました。検査の結果、全て基準値(100 ベクレル/kg)の 2 分の 1 以下でしたので、安心してお召し上がりください。(なお、本期間中、検査対象となる林産物はありませんでした。)

☆簡易検査の測定値が基準値以下であったもの(平成 24 年 12 月～平成 25 年 2 月検査結果)☆

品名	点数	露地	施設
アスパラ菜	1	-	◎
いちご	1	-	◎
かぶ	3	◎	-
キャベツ	3	◎	-
ごぼう	1	◎	-
だいこん	1	◎	-
つぼみ菜	10	-	◎
にんじん	1	-	◎
ねぎ	1	◎	-
はくさい	2	◎	-
はつかだいこん	1	-	◎
ほうれんそう	4	-	◎
りんご	1	◎	-
レッドマスタード	1	-	◎

※放射性セシウム濃度基準値

食品群	基準値(1kg あたり)
飲料水	10 ベクレル
乳児用食品	50 ベクレル
牛乳	50 ベクレル
一般食品	100 ベクレル

詳しくは厚生労働省 HP をご覧ください。

(http://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html)

◎：基準値以下 -：検査未実施

■お問い合わせ

農業振興部先進技術班 Tel：0228-22-9437(農産物について)

林業振興部林業振興班 Tel：0228-22-2381(林産物について)

発行：宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所 (地方振興部)

〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木 5-1 Tel：0228-22-2195(直通) Fax：0228-22-6284

E-mail：nk-khsinbk@pref.miyagi.jp

ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/9.html>

※次号(第7号)は平成 25 年 5 月 1 日発行予定です。